

食べる・たいせつフェスティバル2021

事業実施主体:生活協同組合コープさっぽろ(北海道)

コープさっぽろでは、北海道民に「北海道産の食べ物」に関心を持ってもらい、「食べること」の大切さを感じてもらうことを目的としたイベントとして、『食べる・たいせつフェスティバル』を全道各地で開催しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、2021年度は、初のオンライン開催により実施した。

北海道



【取組の内容】

「食べる・たいせつフェスティバル」は、2007年から実施しており、「食」の発見や地産地消の取組、地域の生産者、消費者等との交流などを通じて、『食べることのたいせつさ』を啓発してきた。

また、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が大きい各地の生産者を応援し、消費者とつなぐことで、地域活性化と地産地消に貢献してきた。



2021年度は、初の試みとしてオンライン開催となったが、生産者、消費者、食品メーカー等をリアルタイムでつなぐことにより、これまで遠方で参加できなかった層への参加の機会となり、当初の予定を上回る5,466人が参加し、北海道産の食べ物を一層身近に感じてもらうことができた。



【取組の成果】

○北海道でこだわりをもって農林水産物を生産している、また、6次産業化に取り組む生産者や、地元で食品を製造する企業を紹介する動画を作成し、全道へ発信することができた。

○オンライン開催となったが、参加者（視聴者）からは、「自家用車がなければ行けない会場ばかりだったのでオンラインでの開催はよかった」、「子どもたちと楽しく視聴させていただいたが、調理に関する動画では、得た情報を活用して料理を楽しみたい」などの意見をいただいた。



○会場でしか出会えなかった生産者の声を、オンラインで発信することで、消費者が生産者を知る機会となり、地元生産物への魅力の再発見につなげることができた。